

平成 28 年度 事業報告

附 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進しました。



建学の理念や校訓を実質的に実りあるものにするために、次のような教育活動を推進しました。

- (1) 高等学校教育を組織的な最後の教養教育の場としてとらえ、各教科をしっかりと教えることによって、生徒に継続的な勉学の習慣と確かな学力を身につけさせます。
- (2) 高等学校時代を人生で人格的変容のもっとも重要な時期ととらえ、依存的な子どもから自立的な大人へと脱皮してゆくように、生徒の生活指導を行います。
- (3) 生徒の安全と身体的健康に注意し、自由で開明的な校内雰囲気を醸成します。

特に、今年度は重点目標を学校改革とし、学校改革も進めながら、次の5つの事項に留意して事業を進めます。

- ①財務改善
 - ・教員人事の適正厳守（員数と年齢構成）
 - ・教育課程の効率化（共通化と特色化の仕分け）
 - ・生徒定員の充足
- ②効率的・実質的な校内組織（簡素化指向、役務の流動化、若手の登用、横の連絡の強化、女性教員の役職参加）
- ③4つのバランス（附属高校改善のための調査から）
 - (i)文武のバランス（進学実績の向上、新しい進学指導プログラム）
 - (ii)男女生徒の適正比率（女子生徒の増加）
 - (iii)文理志望のバランス
 - (iv)教員年齢構成の適正化
- ④教育学科の育成（全校的取り組みへ）
- ⑤SSH事業の継続（協働探究学習と基礎学力）

岡山理科大学附属高等学校
校長 洲脇 史朗

教育の充実

■SSH校としての取組

(1) 全校一丸となり、研究開発・指導に取り組む体制を構築し、実行します。そのために、サイエンスワークを1年生全体の取組みで発表力や協働する力を養成し、さらに高校2年生と3年生での課題研究で探究力を高め、大学聴講により円滑な高大接続を実施し、探究する力を養い研究成果発表を行いました。

(2) SSH事業計画は、以下の項目を実施しました。

- ①自然体験・科学部活動の充実によるSSH事業の推進
- ②カリキュラムの開発
- ③言語力や国際的素養の育成
- ④高大接続・大学聴講
- ⑤新しい教育評価法の研究

■関連校・提携先との連携による質の高い教育の提供

高校での授業に加え、関連大学や関連専門学校での実習、聴講を体験することで、多面的な理解を深め、また、より体験的な教育として、学園の提携する施設等（池田動物園・山田養蜂場他）での実習により、興味・関心を深めました。

関連校との連携においては、岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・岡山理科大学専門学校等において授

業・体験等を行いました。また、提携する池田動物園では、動物に触れながら、生態等の勉強や飼育等の実習を行い連携を強めました。

■学校内での学力向上取組

- (1) 学校行事を精選し、より多くの授業時間を確保するよう努めました。
- (2) 補習や諸検定試験、模試を実施し、学力の伸長を図るとともに自主学習を促しました。

■教職員への資質向上への取組

- (1) 公開授業を実施し、校内教員や外部講師による授業評価を受けることで、教員の教育力向上に取り組みました。
- (2) 先進的な教育や取り組みをしている学校等を視察・見学・体験し、本校への導入を検討することで、新たな教育の展開を行うために情報提供にも努めました。
- (3) 外部講師を招き、資質向上のための講演会を実施しました。

生徒指導

■生徒指導

- (1) 教育相談室・保健室・担任・生徒指導部・管理職との連携を強化し、生徒の学校生活を学校全体で支援する体制の強化に努めました。
- (2) 朝のあいさつ運動を実施し、あいさつ、マナー向上を目指すとともに、生徒の服装、頭髪の乱れなどへの声かけ・指導を行いました。
- (3) 生徒・教職員が協力して、近隣の通学路に人員を配置し、交通マナーの徹底に努め、自転車マナー向上に向けて指導の強化を実行しました。
- (4) P T Aと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導）を年間50回実施しました。
- (5) 岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携を強化し、更に地域との協働の向上に努めました。

(6) いじめ予防のための人権学習を進め、その中で生徒に生命の大切さを伝えました。

(7) ソーシャルメディアの正しい活用について、外部講師を招き、情報化社会の中での情報リテラシーを学ばせました。

進学・就職指導

■進学指導と就職活動支援

- (1) 国公立大学への進学者が増えるよう、センター試験対策講座・国公立対策特別教室・夏季特別講座等の学力向上を目指したプログラムを計画・実施しました。
- (2) 関連大学を紹介する機会を増やし、関連大学への進学意欲を更に向上させるため職員会議において説明会を実施し、教職員の意志精通を図りました。
- (3) より多くの大学訪問を行い、広く情報交換を行いました。また、より多くの指定校推薦枠獲得を目指し、146大学・30短期大学からの推薦依頼を受けることができました。
- (4) 生徒に合わせた就職指導を行い、学校斡旋就職率100%を目指し、達成することができました。

科・コースの取組

■教育学科

設置2年目を迎え、当初の趣旨の通り、教員をめざす生徒の熱意を冷めさせることのないように、小学校等での体験学習を実施すると共に、入試科目などの一般科目にも十分な時間数を配置して、基礎学力の向上と学力の伸長に努めました。今後の改革を見据えて、更なる充実を図ります。

■普通科

四年制大学をはじめとする上級学校へ進学するために、必要な学力を習得させるべく、指導内容の精選とわかりやすい授業を行うとともに、放課後補習や課題での指導によって基礎学力の向上と充実に努めました。

また、確かな進路実現を図るため、幅広い情報収集と的確な分析による、組織的で継続的な進路指導に努め、生徒個々の希望等に副える支援を実施しました。今後の改革において、教育方法の改善を含め充実に努めます。

■機械科

(1) 資格取得の強化のため、徹底した補習を実施し、機械保全、危険物、計算技術等の補習を実施しました。

その結果、今年度も各種資格検定に多数合格し、また、ジュニアマイスター顕彰、技術顕彰を受賞しました。

(2) 高大連携を構築し、関連大学への進学を保障できるよう指導しました。

■電気情報科

(1) 国家資格等の中から3つ以上の資格取得を目指しました。

(2) 進学希望者には、高大連携を継続実施して関連大学への進学を目指しました。

(3) 就職希望者には面接指導等を強化し、100%の内定を目指し、達成することができました。

通信制課程

■通信制課程の取組

教育を受ける機会を最大限に配慮するため、入学、転入学を随時可能としました。また、入学後は学年令の区分に縛られない、生徒の希望、資質、

進路に適合したクラス編成により、生徒のニーズに合った指導を行いました。

〈今後の取り組み目標〉

1. 平日コースの充実

平日、週2日（月曜日・木曜日）の登校により、H・R、所定の授業、学校行事（球技大会、文化祭、3年生を送る会など）、各種研修（校外研修4回、2年生を対象とした研修旅行など）を計画的に実施することにより、自律・協調・継続と教養を高める指導を行いました。

2. 進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率を向上させるために、特別進路講座（火曜日・水曜日）を開講し、向上に努めました。

3. 生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施するとともに、ホームページの内容充実に努めました。また、県内中学校、高等学校の学校訪問を行い、広報・生徒募集活動の強化を図りました。

生徒の受入

2期生を迎える教育学科を中心に、普通科6コース、機械科という陣容で以下の生徒募集活動に取り組みました。

■オープンスクール・入試セミナー

オープンスクールでは、本校の概要・設備を中学生・保護者に知らせると共に、各科・コースの特色を紹介し、授業や実習内容をアピールしました。また、部活動の体験ができるオープンスクールを約1週間実施し、本校への関心を高める取り組みを行いました。

入試セミナーでは、本校の入試制度や出題傾向を重点的に解説し、本校への受験意欲の向上を目指しました。

■ 中学校訪問・中学校対象説明会

県内および近県（兵庫・広島・香川等）の中学校の進路担当者に対し、本校の概要・入試制度を紹介し、生徒への周知を依頼しました。また、中学校教員対象体験型研修会も実施しましたが、今後も継続的な広報活動を展開し、一層の周知を図って行きます。

■ 塾訪問・塾対象説明会

年間を通して、塾を訪問し、適格な情報を提供し、相互の信頼関係を構築し、本校への理解を深めてもらい、生徒への紹介や周知に努めました。

■ 地区別説明会

県内、各地区に教職員が出向き、生徒・保護者向けの説明会を実施しました。直接アピールすることにより身近に本校を感じてもらい、理解・関心を深めることに努めました。岡山市内各地域、玉野市、瀬戸内市、倉敷市、総社市、和気町、高梁市等の18会場で20回実施しました。広報活動全般については、改革の動向を踏まえ抜本的な改善を検討して行きます。

■ ホームページの充実

ホームページの構成を刷新するとともに、内容を充実させ、適宜情報発信しながら、募集活動に努めました。

内部質保証

■ 授業アンケートによる授業評価

生徒、保護者に授業アンケート等を実施し、結果を以後の学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めました。また教員の授業評価等を実施し、質の保証の向上を目指しました。質保証についての取り組みは、今後も強化していきます。

主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月17日	入学式（通信）
5月16日	P T A総会
6月15～ 16日	球技大会
7月17日	後援会総会（通信）
7月24日	卒業式（通信）
8月28日	入学式（通信）
9月28日	体育祭
9月30日	文化祭
10月1日	文化祭（通信）
12月4日	卒業式（通信）
12月18日	入学式（通信）
1月7日	県外生入試
2月2・3日	選抜1期入試
2月21日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月12日	卒業式（通信制課程）
3月17日	終業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成28年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	教育学科	40	7	80	16	
	普 通 科	特別進学コース	20	310	1,140	877
		進学理大コース	60			
		進学総合コース	60			
		生命動物コース	40			
		アニメ・デザインコース	60			
		健康・スポーツコース	60			
		中高一貫コース	80			
	進学医療コース	(募集停止)				
	普通科 計	380				
機械科	80	56	240	171		
電気情報科	(募集停止)		40	28		
全日制課程 計		500	373	1,500	1,092	
通信制課程 (広域) 普通科				600	190	
総合計		500	373	2,100	1,282	

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学希望者 C	進学者 D	進学率 D/C	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
全日制課程	340	60	60	100%	280	276	99%	9	0	1
通信制課程	72	34	10	29%	38	29	76%	7	2	0

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	トヨタ自動車㈱、㈱豊田自動織機、㈱デンソー、タチノ工業㈱本社、三菱自動車工業㈱、今治造船㈱ 三井造船㈱、富士ダイス㈱、㈱NTN赤岩製作所、カネ工業㈱、㈱トヨタ、㈱マリークワントコスモックス、日宝総合製本㈱他
主な進学先	九州大学、岡山大学、香川大学、高知大学、島根大学、埼玉大学、横浜市立大学、岡山県立大学 早稲田大学、明治大学、東京理科大学、立命館大学、同志社大学、関西学院大学、関西大学 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学 他

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	副校長・教頭※	教諭	教員 計	事務職員
1	5	66	72	14

※中学校との兼務者2名含む。

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度	前年度
科目		決算額	決算額
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	634,356	661,128
	経常費等補助金	327,628	333,327
	その他収入	35,261	182,245
	計	997,244	1,176,700
支出	人件費	952,760	1,098,052
	教育研究経費	259,157	312,941
	管理経費	106,115	112,551
	その他支出	10	0
計	1,318,042	1,523,544	
教育活動収支差額		△320,797	△346,844
教活外	収入		
	受取利息等	2	50
	支出		
借入金利息等	15,550	21,060	
教育活動外収支差額		△15,549	△21,011
経常収支差額		△336,346	△367,855
特別	収入		
	資産売却差額等	500	970
	支出		
資産処分差額等	1,090	839	
特別収支差額		△590	132
基本金組入前収支差額		△336,936	△367,723
基本金組入額合計		△96,320	△262,505
当年度収支差額		△433,257	△630,227

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
第11校舎1階女子トイレ改修	840
第12校舎2階女子トイレ改修	2,000
硬式テニス場改修	12,500
マイクロバス購入	6,250